

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、24～30℃台を示し、著しく高めでした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網――西彼地区では、マイワシなどが1日1統当たり11トンの水揚げで、前週の58%（前年並み）。五島奈留地区では、マアジが1日1統当たり0.2トンの水揚げで、前週を上回った（前年を下回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり21トンの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。
- イカ釣――スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり11kgの水揚げで、前週の20%（前年を上回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり891kgの水揚げで、前週の38%（前年を上回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり31kgの水揚げで、前週並み（前年並み）。壱岐勝本地区では、1日当たり594kgの水揚げで、前週の63%（前年並み）。五島奈留地区では、1日1統当たり12kgの水揚げで、前週並み（前年を下回った）。
- 定置網――対馬西岸地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり240kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ケンサキイカなどが1日1統当たり496kgの水揚げ。
- 一本釣――北松宇久地区では、イサキが1日当たり659kgの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。野母地区では、マアジが1日1統当たり4kgの水揚げで、前週の1.3倍（前年を下回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（7/1～7/4の4日間）の沖合イカ釣（船凍船）は、能登沖で操業。アカイカ漁は北太平洋で操業。

沿岸イカ釣（氷蔵船）は、対馬及び山口沖、山陰沖、能登沖、佐渡沖で操業。

鳥取県西部（沖合船）は、3日延3隻、総計120箱、1航海最高52箱、平均40箱。スルメイカ（20～30入）67箱、ケンサキイカ（2～4立）53箱の混獲となった。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第7-12号 五島灘・五島西沖・壱岐水道・対馬東水道の観測結果」を発表しました。漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>